心と心をつなぐ活動で元気なまちに

第2回 山田地区福祉・ボランティアのつどい

山田地区福祉・ボランティアのつどいが3月21日、山田総合福祉センターで開催されました。オープニングでボランティアひまわり隊の子どもたちが紙芝居を上演。続いて、介助犬と生活を共にしている米盛晃さんが、九州初の介助犬レイクとの日常生活の様子について講演し、実際に床に落ちたペットボトルを持ってこさせるなどして介助犬の仕事ぶりを紹介しました。このほか、福祉団体の手作り菓子の販売や手話を交えたひまわり隊の歌などが披露され、住民相互の交流を深めました。

領主の暮らし大公開

都城島津邸オープン

市が修復整備を進めてきた都城島津邸が3月27日に一般公開され、会館を待ちわびた市民らおよそ700人が詰め掛けました。開館に先立ち26日に関係者らが参加して開館式典が開催され、長峯市長が「島津邸を子供たちの歴史教育の場、観光の核として期待しています。都城市の宝として引き継いでいきたい」とあいさつ。開館を祝うテープカットの後、参加者らは庭園を自由に散策したり、邸内や都城島津伝承館で学芸員からの説明を聞いたりして一足早く新しい施設を堪能していました。

日本一の弓のまちに全国の弓道家集う

都城弓まつり　全国弓道大会

都城弓まつり全国弓道大会が3月27日、28日の2日間、早水公園体育文化センターで開催されました。竹弓の生産量が全国の9割を占める日本一の弓のまちをアピールしようと始まった本大会。23回目となる今回は、全国25都府県から2,444人の弓道家が参加し、28㍍先に設置された的をめがけ、真剣な表情で弓を引いていました。大会運営委員長の當房（とうぼう）孝之さん（都原町）は「弓道は、年を重ねてもできるスポーツなので、今後も多くの人に参加してもらいたい」と話していました。

桜は満開！ 笑いは全開！

さくらフェスタ高城

3,000本のソメイヨシノが咲き誇る観音池公園で3月28日、さくらフェスタ高城が開催されました。「ふるさとは自分たちが盛り上げる」という合言葉の下、高城町商工会青年部が中心となり実施。グラウンドゴルフや地元の特産品観音池ポークを使ったしゃぶしゃぶわんこ大会、個性的なマスクや衣装などで笑いを誘う高城プロレスなどが行われ、多くの人出でにぎわいました。日野優子さん（宮崎市）は「桜もきれいですが、毎年変わるステージイベントが楽しみ」と笑顔を見せていました。

一番福を目指して桜並木を激走

さくら福男・さくら福女

3月28日、花見客で賑わう母智丘公園で今年の福男福女を決めるさくら福男・福女が開催されました。桜並木入り口をスタートし、290段の石段の先にある本殿の鈴を一番乗りで鳴らした男女を今年の福男・福女とする企画で、今回が初めての開催。小雨の降りしきる中、市内外から参加した中学生以上の男女合わせて29人が、自慢の健脚を競い合いました。初代福女に輝いた大野翼さん（生目中3年）は「階段がきつかったです。高校受験にも弾みがつきます」と喜びをかみしめていました。

4学年そろってイザ始動

南九州大学合同入学式

高鍋キャンパスから完全移転し、新たなスタートを切る南九州大学の合同入学式が、4月5日総合文化ホールで行われました。今年度開設された人間発達学部の45人を含む都城キャンパスの157人と宮崎キャンパスの92人の合計249人の新入生が長谷川二郎学長から入学を許可され、学園生活をスタートしました。新入生を代表して久保綾乃さん（人間発達学部）が「伝統ある南九州大学で学べることに感謝し、地元に貢献できる人材になりたい」と力強く宣誓しました。

後世に語り継ぐ 平和の尊さ

都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭

都島公園で4月6日、特別攻撃隊戦没者慰霊祭がしめやかに行われ、遺族や戦友、遺族会関係者ら約400人が参列し戦没者の冥福を祈りました。太平洋戦争末期、沖縄へ向け、都城西・東飛行場から出撃し、帰らぬ人となった特攻隊員や、その支援にあたり亡くなった援護隊員を悼むこの慰霊祭は、今年で35回目を迎えます。遺族を代表してあいさつした山下浩一郎さん（熊本県）は、「命の尊さ、平和の尊さ、そして戦争の悲惨さを後世に語り継いで欲しい」と平和の大切さを訴えました。

一世紀を経た今も継がれる敬老祭

宮島地区敬老祭100周年記念

4月11日、菓子野町の宮島地区で敬老祭100周年記念が行われました。明治43年に始まり大正、昭和の時代を経て今もなお受け継がれてきた祭。会場の宮島地区自治公民館には70歳以上の高齢者70人が招待され、住民に呼び掛けて集めた写真スライドの上映や地元小学生らの子供太鼓のほか、住民らが作った「宮島ん音頭」の唄に合わせた踊りも披露され、節目の祭を祝いました。最高齢者の今村キミさん（97歳）は「毎年が楽しみ。昔の写真を見て若返った気がします」と喜んでいました。

堀之内久男さんを偲んで

元衆議院議員で農林水産大臣、郵政大臣を努め、新都城市において2人目となる都城市名誉市民になられた堀之内久男さんにおきましては、病気療養中でありましたが、去る3月31日午前6時50分、85歳の生涯を静かに閉じられました。

堀之内久男さんは、大正13年11月10日、安久町（旧中郷村）に生まれ、海軍兵学校卒業後、昭和38年5月に38歳の若さで旧中郷村長に就任。その後、県議会議員を経て昭和44年から旧都城市長に就任し、2期7年9カ月間にわたり市政に携わられました。昭和51年には、衆議院議員に初当選後、防衛政務次官を始め農林水産大臣、郵政大臣を歴任し、平成15年10月に衆議院議員を退任。平成13年春の叙勲では、勲一等旭日大綬章を受章されました。

自民党総合農政調査会長などを歴任し農政通として知られた堀之内さんは、県や本市の基幹産業である農林水産行政の発展に指導役として、さらには、農業後継者不足に対処するため、農業者年金制度改革に力を注ぎ受給者負担の大幅圧縮に貢献されたほか、口蹄疫（こうてい）や牛海綿状脳症（ＢＳＥ）などの対策に尽力されました。

本市の名誉市民である堀之内先生のご功績にあらためて感謝の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます

都城市長　長峯　誠

都城讃歌

【わがふるさと「やまんくち」】

迫園　満弘さん

迫園 満弘
（さこぞの みつひろ）

◎プロフィル

昭和21年山之口町生まれ。都城都島高等学校卒業。現在、埼玉で測量・調査・設計・補償コンサルタント「株式会社本州」を経営。「川口市戸塚ソフトボールリーグ」会長。「在京山之口会」会長

昭和40年3月8日急行高千穂号で都城駅を日の丸の乱舞の中で高校の友人や後輩に見送られながら、18歳の私はまさに青雲の志を抱いて都城を後にいたしました。やがて汽車は出身地の山之口駅を通過し、青井岳のトンネルを抜けていきましたが、親兄弟や友人との別離に涙をこらえての上京でした。「やまんくち」この響きに私は胸を打たれます。いつも帰省するたびに「やまんくち」から仰ぎ見る高千穂峰は日本一品位ある美しさだなあと魅せられています。

幼少年時代の遊びといえば、現在山之口運動公園になっている一帯での「戦ごっこ」は面白かったなあ。大勢の子供を集めての攻防戦。刀もやりもすべて竹や木切れでありました。小学校では霜解けの土俵での相撲、グラウンドでは素手でのソフトボールを楽しみました。

私は都会での生活のほうが長くなったにも関わらず、都城訛りからいまだに抜け出せずにいます。都城薩摩弁が取り持つ縁で大都会に多くの友人を得ることが出来ました。帰省した折に温かく迎えてくれる仲間たち、焼酎を飲みながらの昔話、ふるさと「やまんくち」の幸せ感じるひとときであります。昨年12月に在京山之口会が発足しました。現在所在確認は250人まで増えています。関東の空から故郷を応援しています。

学校へ行こう

都城西高等学校

都原町3405　☎23-1904

自主自律を重んじる校風

都城西高等学校生徒会

「理想・優雅・自主自律」を校訓として、都城西高校生は、日々勉学に励んでいます。

まず、定期戦やクラスマッチなどの全校生徒が熱中できるさまざまな学校行事を生徒の手で自主的に行っています。中でも、「葵碧祭（きへきさい）」は西高の最大行事です。葵碧祭は、文化の部が2日、体育の部が1日の3日間で構成されていて、特に文化の部では、クラス優勝をかけた合唱コンクールをはじめ、バンド演奏やダンスなどが披露され、盛り上がります。体育の部では、白熱した競技が繰り広げられ、各団の応援も本当に素晴らしいです。

次に、西高の特徴である「西高タイム」は、通常、授業の後に1時間設けられ、この時間を使って自分が苦手とする科目の復習などを行います。そのおかげでどんどん進む授業にも後れをとらずについていくことができます。

今年から、新たにフロンティア科が設置されるなど、歴史と伝統を誇る西高は、現在も少しずつ変化しています。これからの高校生活がより充実するように、わたしたち生徒も勉強だけではなく、学校行事や部活動でもがんばっていこうと思います。

◎学校のシンボル
「イチョウ」
中庭のイチョウ並木は、校舎ほどの大木です。初夏は木陰、秋は黄色いじゅうたんを作り、生徒たちを50年近く見守ってきました